

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

阿見町長 千葉 繁

市町村名 (市町村コード)	阿見町 084433
地域名 (地域内農業集落名)	若栗 (三区下・西方・宿・北)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年7月9日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地区において水田では水稻、転作作物としてソバ、畑地では馬鈴薯や露地野菜等により土地利用が図られている。
吉原方面の水田は水の出が悪く土地改良施設の老朽化が指摘されている。西方ではソバの作付けが多いものの、雨が降ると水を被ってしまいソバがとれないという課題がある。三区下は新規就農者が露地野菜をメインに就農する傾向があるエリアとなっている。また、この地域は平らすぎるので水がなかなか抜けない、水脈が浅いといった問題も指摘されており、排水対策が必要とされている。

(2) 地域における農業の将来の在り方

水田については一部のエリアについては拡大意向のある担い手に集積していく。また転作作物としてソバの作付けもあるが、地理的な条件もあり排水問題は課題となる。
畑地については一部条件の悪い畑もあるが、隣接地やある程度面積がまとまれば拡大意向のある担い手へ集積が可能となる。また新規就農者の就農エリアとなっており、面積は大きくはこなせないが近隣の農地で空けば受けてもいいとの意見もあり、その場合は誘導を図る。ソバ、馬鈴薯、露地野菜等による土地利用を図る。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	203 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	203 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針 農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、担い手への農地集積を進める。
(2) 農地中間管理機構の活用方針 地域内の農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を斟酌し、段階的に集約化を進める。
(3) 基盤整備事業への取組方針
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針 市町村や農業委員会、JA等と連携し、地域内外から多様な経営体を募集し、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針 有用な情報等があれば、活用を検討し、遊休農地の発生防止を図る。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

①鳥獣被害防止対策	②有機・減農薬・減肥料	③スマート農業	④畑地化・輸出等	⑤果樹等
⑥燃料・資源作物等	⑦保全・管理等	⑧農業用施設	⑨耕畜連携等	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

--